

□ トピック □ 虫の活動と気温の関係

春が近づくと虫の発生を心配する声をあちらこちらで耳にします。暖かくなると生き物の活動が活発になるのは経験上よくわかっているのですが、虫に関してはどうでしょうか？

虫の繁殖と成育に関わる指標として、「発育零点」というものがあり、これはこの温度を下回ると即座に死亡したり動かなくなるのではなく、成長が止まる温度を表します。これより低ければ成長できないわけですから、虫の動きは鈍くなったり、じっと止まったりしますが、これよりもある程度高い温度であれば虫は活発に活動し、どんどん増えてゆきます。農業分野など、研究が進んでいる主要な害虫ではこの温度が比較的正確に明らかにされています。

では室内で出てくる害虫たちはどうかというと、いくつかの害虫では明らかにされていますが大部分はまだわかっていないのが現状です。わかっている虫に関してその温度に着目してやると、平均気温が10℃を超えたあたりから発育零点をクリアする虫が出始め、15℃を超えると多くの虫でクリアしていきます。さてこの気温、いつくらいかということ、西日本ではだいたい3月末～4月にあたります。これがちょうど虫が室内でも発生するころだといわれる時期と一致します。毎日の気温にも注目し、本格的な防虫対策のスタートをスムーズに行いましょう！

種名	発育零点(℃)
ノシメダラメイガ	10.8
タバコシバンムシ	13.0
カクムネヒラタムシ	14.7
ココソウムシ	15.5
チャバネゴキブリ	15.9
クロゴキブリ	16.0
コナガシクイ	17.5
ココヌストモドキ	19.0

表：発育零点の1例
研究差や地域差などもあり
確実なものでないものもあります

□ お知らせ □ 虫の状況を早くつかむために自分たちでもできること



気になるところにはトラップを
おいてチェックしてみましょう！

そろそろ虫が動き出す時期、とはいっても虫の発生初期は気づきにくいものです。しかし、大量発生してから対策を立てたのでは、混入や被害のリスクをコントロールできているとは言えません。

早期に工場内での捕獲状況を把握し、対策を打つために衛生管理を外部業者へ委託し、虫の調査や防除を行っていると思いますが、業者を常駐させてきめ細かな対応を求めることは、コスト面からあまり現実的ではありません。ではもっと密に情報を把握するためにどうすればよいのでしょうか？みなさまでも気になる場所にトラップを置いてチェックしてみたり、業者の設置したトラップをのぞいてみれば早期に異常が察知できるのです。詳しい虫のことがわからなくても、数や大きさはわかるはずですよ。

弊社は防虫のための調査を行うことはもちろん、誰でも使いやすい調査用のトラップの販売、効果的な使用方法や虫の分析に関する従業員様へのご指導、各種衛生講習会なども行っております。ご興味がありましたら一度お問い合わせください。

□ 豆知識 □ 木についている丸い塊の正体

右の画像の丸いものを見てください。これはカキやクスノキ、サクラ、ナシ、ケヤキなどの多くの樹木あるいはその周辺でよく見られるものですが、正体は何でしょう？

正解は冬に見られる「イラガ」の一種の蛹です。イラガは幼虫が木の葉や芽を食害する害虫であると同時に、幼虫は体に毒棘(どくきょく)を持ち、これを触ったらまるで電気が走ったようにしびれ、痛むことから「電気虫」や「オコゼ」とも呼ばれます。卵、蛹(一部の種を除く)、成虫は毒棘を持たず、被害をもたらしません、幼虫でひどい目にあつたことがある方も多いのではないのでしょうか。もしも刺された場合は、まず棘を除去するために直ぐに流水で患部を洗い流すか、患部に当たるために痛いですが粘着テープなどで棘を除去するかしてください。その後市販の虫刺されの治療薬、または抗ヒスタミン剤やアロエの葉の汁を塗るようにしましょう。お子様などと暴れまわると痛いので、病院にかかることもお勧めいたします。

この蛹がついている木というのはそこにイラガの幼虫がいたことにほかなりません。あの痛みを味わわないためにも、周りの樹木をよく観察し、イラガの蛹がないかを探してみましょう。



これはなんでしょう？



総合衛生コンサルタント・生物害防除

東洋産業株式会社

URL: <http://www.to-yo-s.co.jp>

本社：岡山県岡山市北区新屋敷町3-19-20

TEL(086)241-8080 FAX(086)241-8094

拠点：大阪、姫路、岡山、倉敷、福山、広島、高松、松山
関東(市川)